

【第4版】

環境経営レポート



防水工事・塗装工事・外壁改修工事
株式会社 **タニグチ防水塗工**

《 目 次 》

1. 事業概要	2
1) 事業者名及び代表者	2
2) 所在地	2
3) 環境管理責任者	2
4) 連絡先	2
5) 事業活動	2
6) 認証・登録範囲	2
7) 事業規模	2
8) 推進組織図	2
2. 環境経営方針	3
3. 環境経営目標	4
4. 環境経営目標の実績	4
5. 環境経営計画の取組結果とその評価	5
6. 次年度の環境経営目標と環境経営計画	6
7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反訴訟の有無	7
8. 代表者による全体評価と見直しの結果	7

1. 事業概要

1) 事業所名及び代表者名

株式会社 タニグチ防水塗工

代表取締役 谷口 真樹

2) 所在地

本 社・倉庫
山崎倉庫

〒880-0831 宮崎県宮崎市新栄町97番地
〒880-0836 宮崎県宮崎市山崎町上原1100番地

3) 環境管理責任者

EA-21責任者 : 谷口 茂樹

4) 連絡先

T E L : 0985-29-5724 F A X : 0985-28-8921
E-mail : tanibo@orange.ocn.ne.jp

5) 事業活動

建設業（塗装工事、防水工事）、外壁改修工事、アスベスト処理工事
・建設業許可 宮崎県知事：（般-29）第005689号

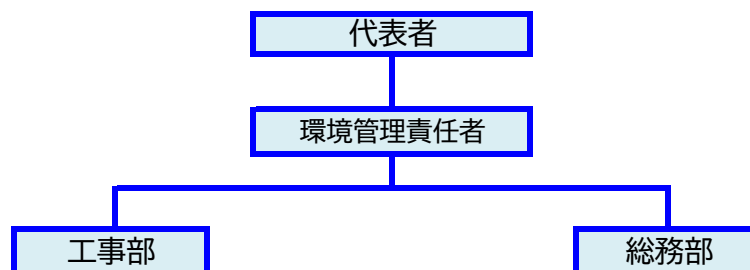
6) 認証・登録範囲 全組織・全活動

- ・対象組織 . . . 本社・倉庫、山崎倉庫
- ・対象活動 . . . 建設業（塗装工事、防水工事）、外壁改修工事
- ・対象期間 . . . 2023年4月1日～2024年3月31日
- ・第4版作成 . . 2024年6月20日

7) 事業規模

項目	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
工事件数	59	65	80	83
従業員数	10	10	10	10
本社事務所床面積 (㎡)	131.5	131.5	131.5	131.5
本社倉庫床面積 (㎡)	131.5	131.5	131.5	131.5
山崎倉庫床面積 (㎡)	465.2	465.2	465.2	465.2

8) 推進組織図



環 境 経 営 方 針

私達は、積極的に環境問題を認識し、優先課題と位置付けて、当社の事業活動のあらゆる分野で自主的、積極的に環境保全に取り組み、循環型社会及び持続可能な社会の実現に努めます。

1. 当社は、塗装・防水工事業を通じて環境経営マネジメントシステムを構築し、環境経営目標・環境経営計画を定め、環境経営システムの継続的な改善に努めます。
2. 関連する環境の法規制を遵守するとともに、行政機関や団体及び地域の要請に協力します。
3. 塗装・防水工事業に於いて、環境に与える影響を削減する為、次の事項に対して優先的に取り組みます。
 - ① 化石燃料や電気使用量の節減による、二酸化炭素排出量の削減
 - ② 事業活動から排出される廃棄物の削減と再資源化推進
 - ③ 節水活動による水使用量の削減
4. 創意工夫や新技術活用により環境に配慮した施工、及び効率的施工に努めます。
5. 環境保全に関する啓蒙・啓発と、地域での社会貢献活動に努めます。

この環境経営方針は、当社全従業員に周知徹底するとともに、一般に開示します。

制定：2021年4月1日
株式会社 タニグチ防水塗工
代表取締役 谷口 真樹

3. 環境経営目標

取組み項目		実施区	第一次中期目標(改定版)			
			基準値 (2020年4月～ 2021年3月)	2022年度 (2022年4月～ 2023年3月)	2023年度 (2023年4月～ 2024年3月)	2024年度 (2024年4月～ 2025年3月)
1. 二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO ₂)		全社	41,603	41,187	40,979	40,773
エネルギー	①電気使用量の削減 (kWh)	本社	8,616	8,530	8,487	8,444
	②ガソリン使用量の削減 (L)	現場	9,672	9,575	9,527	9,479
	③軽油消費量の削減 (L)	現場	6,269	6,206	6,175	6,144
2 削減 の 廃 棄 物	①一般廃棄物の削減 (袋/45ℓ) (最終処分量の削減)	事務所	未計量	現状調査 (12袋)	12	12
	②建設副産物の削減 (kg) (混合廃棄物の削減)	現場	4,610	4,564	4,541	4,518
3. 水資源使用量の削減 (m ³)		全社	72.0	71.3	70.9	70.6
4 環境 活動 の 有 益 な	①自らが施工する土木建築物の環境 性能の向上及びサービスの改善	現場	環境経営計画の遵守			
	②地域貢献活動推進	全社	地域貢献活動 3回以上/年間			

- *一般廃棄物は焼却等の最終処分となる廃棄物の削減を目標とし、廃棄物収集運搬事業者から購入する廃棄物の袋(袋/45ℓ)の使用数の削減を目標としていますが、最低限の量の現状維持を目標とします。
- *再資源化率＝(再利用＋再生利用＋熱回収)÷総排出量×100
- *自らが施工する土木建築物の環境性能の向上及び、サービスの改善は当該環境活動計画を遵守する事を目標としています。
- 改訂； ①軽油の基準値を2021年度実績にします。(2020年度がゼロの月が多かった為)・・・2022.5.1
- ②一般廃棄物は月1袋の最低限の排出の為、現状維持を目標とします。・・・2022.5.1

4. 環境経営目標の実績

・2023年4月から2024年3月までの1年間の実績は以下の通りです。

取組み項目		実施区	目標値	実績	達成率	評価
1. 二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO ₂)		全社	40,979	32,023	128.0%	○
エ ネ ル ギ ー	①電気使用量の削減 (kWh)	電灯	8,487	6,926	122.5%	○
	②ガソリン使用量の削減 (L)	現場	9,527	10,346	92.1%	×
	③軽油使用量の削減 (L)	現場	6,175	2,177	283.6%	○
2 削減 の 廃 棄 物	①一般廃棄物最終処分量の削減 (袋/45ℓ)	na	12	12	100.0%	○
	②建設副産物の削減 (kg) (混合廃棄物の削減)	現場	4,541	5,120	88.7%	×
3. 水資源使用量の削減 (m ³)		全社	70.9	72.0	98.5%	×
4 環境 活動 の 有 益 な	①自らが施工する土木建築物の環境 性能の向上及びサービスの改善	全社	経営計画を 順守します	経営計画を順守 しています	—	○
	②地域貢献活動の推進	現場	3回以上/年	2	66.7%	×

- *購入電気の二酸化炭素排出係数は、九州電力(A0275)の調整後排出係数0.347を使用しています。
- *化学物質を含有する塗料を使用することがありますが、削減が困難なため削減目標は設定していません。
- 但し、出来るだけ環境配慮型塗料の使用を推進すると同時に、購入量の把握を徹底しています。
- *事務所の灯油などを含む全社の二酸化炭素排出量は、32,865.5kg-CO₂です。

5. 環境経営計画の取組み結果とその評価

取組項目	活動内容	取組み状況	評価
・電気使用量の削減	①不在箇所、昼休みなどの電気消灯徹底	不在・不要箇所の消灯やエアコンの適温化などで徹底した節電に取組み、12ヶ月連続で目標達成となり、年間では122.5%の達成となりました。これからも、熱中症にならない程度の節電に努めます。	○
	②パソコン、コピー機等のＯＡ機器は省電力に設定する		○
	③エアコンの適温化 (夏28℃程度、冬22℃程度)		○
・ガソリン使用量の削減	①エコドライブを徹底する	遠方現場があった事と、ガソリン燃料の発電機使用量が多かった事で、ガソリン使用量が目標をオーバーしました。ただ、エコドライブや現場への相乗り、事前段取りの徹底で折返し運転の撲滅等を徹底して実施しています。	○
	②現場への相乗りを推進する		○
	③事前段取りの徹底で折返し運転をしない		○
・軽油使用量の削減	①コンプレッサや発電機など、使用しない時はこまめにエンジンをストップする	軽油使用の大型発電機の使用が少なかった事や、ディーゼル車の稼働が少なかった事などで283.6%の大幅な達成となりました。これからも機器類のこまめなエンジンストップ等で省エネに努めます。	○
	②エコドライブを徹底する。 (急発進抑制、アイドリングストップ実施)		○
・一般廃棄物の削減	①北一は裏紙使用や両面、縮小、集約北一等に努める	北一時の裏面使用や両面、縮小、集約北一等出来る範囲で削減に努めて12袋の排出となりました。これからも廃棄物の分別を徹底して最終処分量の削減に努めます。	○
	②A-パレスファックス等を利用し、できるだけ紙を排出しないようにする		○
・建設副産物の削減 (混合廃棄物の削減)	①資材発注時は仕様書の再チェックと在庫の確認を行い、残余材の発生を抑制する	資材は、発注前に在庫確認をして不足分の発注に努め、余った資材は持ち帰って再利用しています。又、廃棄時にできるだけ分別廃棄を心がけているが、ケレンくずなどの混合廃棄物が5.12t発生して、89.1%の目標達成率となりました。	○
	②現場で発生する混合廃棄物は、できるだけ分別してリユース、リサイクルを推進する		○
	③資材包装物は業者へ持ち帰りを依頼する。		○
・水資源使用量の削減	①蛇口付近に「節水」を意識させるシール等を貼付する	今年度は現場使用の水は比較的少なかったが、刷毛洗浄等でやや水使用が多かった月があり、98.5%の目標未達成となりました。	○
	②水道の漏水を定期的に点検する (全蛇口を止めて水道メーターの動きを確認する)		○
・自らが施工する土木建築物の環境性能の向上及びサービスの改善	①出来るだけ環境配慮型塗料を使用する (大気汚染低減・健康負荷低減・省資源・省工)	排ガス規制や騒音規制に適合した建設機械を使用している。又、現場の状況に応じて振動や粉塵対策を講じる等、環境に配慮した施工に努めています。	○
	②騒音や振動、粉塵、飛散などに配慮した工事を行う		○
	③創意工夫により工期短縮努める		○
②環境保全の取組推進	①環境ボランティア活動など、地域貢献活動に積極的に参加する	現場や事務所周辺は常に清掃して整理整頓に努めています。期間中はボランティア活動に2回参加しました。	○
	②現場付近や事務所周辺は常に清掃し、整理整頓に努める		○

6. 次年度の環境経営目標と環境経営計画

取組項目	次年度の目標	次年度(2024年度)の活動内容
二酸化炭素	39,359 kg-CO2	省エネ・省資源活動の推進
・電気使用量の削減	基準値の0.5%削減 事務所 7,851kWh	①不在箇所、昼休みなどの電気消灯徹底 ②パソコン、コピー機等のOA機器は省電力に設定する ③エアコンの適温化 (夏28℃程度、冬22℃程度)
・ガソリン使用量の削減	基準値の0.5%削減 9,435 L	①エコドライブを徹底する ②現場への相乗りを推進する ③事前段取りの徹底で折り返し運転をしない
・軽油使用量の削減	基準値の0.5%削減 5,326 L	①コンプレッサや発電機など、使用しない時はこまめにエンジンをストップする ②エコドライブを徹底する。 (急発進抑制、アイドリングストップ実施)
・一般廃棄物の削減	2021年度現状維持 (12袋/45ℓ)	①B2-は裏紙使用や両面、縮小、集約B2-等に努める ②A-パルスファックス等を利用し、できるだけ紙を排出しないようにする
・建設副産物の削減(%) (混合廃棄物排出割合の削減)	基準値の0.5%削減 57.6%	①資材発注時は仕様書の再チェックと在庫の確認を行い、残余材の発生を抑制する ②現場で発生する混合廃棄物は、できるだけ分別してリユース、リサイクルを推進する ③資材包装物は業者へ持ち帰りを依頼する。
・水資源使用量の削減	基準値の0.5%削減 63.2 m	①蛇口付近に「節水」を意識させるシール等を貼付する ②水道の漏水を定期的に点検する (全蛇口を止めて水道メーターの動きを確認する)
・自らが施工する土木建築物の環境性能の向上及びサービスの改善	当該環境活動計画の遵守	①出来るだけ環境配慮型塗料を使用する (大気汚染低減・健康負荷低減・省資源・省エネ) ②騒音や振動、粉塵、飛散などに配慮した工事を行う ③創意工夫により工期短縮努める
・環境保全の取組推進	3回以上/年間	①環境ボランティア活動など、地域貢献活動に積極的に参加する ②現場付近や事務所周辺は常に清掃し、整理整頓に努める

*建設副産物の削減は、分別によって総排出量のうち混合廃棄物の排出割合を減らす事を目標としました。

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反訴訟の有無

当社の事業に係る環境関連法規は、担当者が定期的に日建連や協会、及び業界情報等で常に確認しています。

尚、関連法規制の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

また、関係当局からの指摘、及び地域住民からのクレームや訴訟もありませんでした。

現場での遵守状況は、安全パトロール中や安全会議時などで確認しています

当社の事業活動に関する主な環境関連法規は以下の通理です。

法規名	該当する要求事項
廃棄物処理法	委託契約の締結
	マニフェストの交付義務
	産業廃棄物管理票交付等状況報告書
	保管場所の掲示
フロン排出抑制法	簡易点検の実施
労安法(石綿障害予防規則)	届出
労安法(鉛中毒予防規則)	鉛作業主任資格者の配置、暴露防止
労安法(有機溶剤予防規則)	有機溶剤作業主任の配置
大気汚染防止法(石綿)	計画書の提出
	解体工事時の措置

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

エコアクション21の取組を始めて3年間が経過しました。

取り組み当初から懸念していましたが、工事の内容（件数・場所・規模）によってエネルギーの使用量や廃棄物の排出量が増減します。

この為、私たちが省エネや省資源活動を徹底して実施しても目標未達成となる場合があります、社員のモチベーションの維持に苦労します。

ただ、目標を達成する為に私たちが決めた環境活動は、地球環境負荷の低減に大いに役立つ必要な活動であると信じて、これからも全社員一丸となって環境負荷の削減に取り組む、持続可能な社会の形成に微力ながら尽力していく所存です。